

分野	人家に対する地すべり対策急傾斜地崩壊対策			事業番号	11	事業名	地すべり対策			
市町村名	小谷村	ふりがな 箇所名	しらいわ 白岩			事業年度 (完了年度は見込み)	H24	年度 ~	H28	年度
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	集水井1基 集水ポ - リングL=1000m 横ポ - リングL=2000m 明暗渠工L=200m				H23年度末事業進捗率	0 %			
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	0 %			
	H24年度実施内容	地質調査、地形等測量、地すべり観測、地すべり解析1式				用地補償費ベース	0 %			
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残				
	事業費計(千円)	200,000	0	0	20,000	200,000				
財源内訳	国庫支出金	100,000	0	0	10,000	100,000				
	その他					0				
	県債	90,000	0	0	9,000	90,000				
	一般財源	10,000	0	0	1,000	10,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			ランク	評点			
	必要性 (30)	保全対象人家	10戸以上	1~9戸	0戸未満	C	7			
		保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし		3			
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設	一般施設	なし		0			
		土砂の河川への流入量	10万m3以上	1万~10万m3	1万m3未満		4			
			なし				0			
	小計					14				
	重要性 (10)	交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小	A	7			
		防災計画上の位置づけ	位置付けあり	位置付けなし			3			
		小計						10		
	効率性 (10)	費用対効果(B/C)	B/C1.5以上	B/C1.0以上1.5未満	B/C1.0未満	B	4			
		早期発現度	5年未満	5年~10年	10年以上		2			
		代替案の検討	あり	なし			0			
		小計						6		
	緊急性 (40)	地すべり活動度	顕著な動きがある	軽微な動きがある	動きなし	A	30			
地すべり変状		変状あり	変状なし		10					
小計							40			
計画 熟度 (10)	地元の協力	反対意見なし	反対意見あり		A	5				
	地域からの要望	高い	それほど高くない			5				
	小計						10			
費用対効果(B/C)		1.6		評価の合計			A	80		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当区域は昭和39年、平成3、7年に地すべりが発生、近年細分化した地すべりが活発化している。また、地元から地すべり変状の通報を受け近隣を調査した結果、頭部、側部のクラック等連続する段差や滑落崖を確認した。保全対象には人家や県道があり、唯一の生活道路である道路が寸断されれば人家124戸が孤立化するため、緊急的に恒久対策を行う必要がある。								
	地域からの要望経緯	平成22年7月23日に役場を通じ地元から連絡があり、Co舗装や庭のクラック、池の水漏れ、融雪時に車庫の土台が浮くなどの地すべり兆候が見られることから、現地調査を依頼された。								
	事業説明等の経緯	当地区は周囲に地すべり箇所が多く、災害の歴史も古いことから地元より情報提供があるなど協力的である。								
	環境・景観への配慮項目	地すべり防止施設は地中構造物が主であり、環境への負荷は極めて小さいと考えられる。								
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。								
特記事項	行政と地元住民とが一体となって事業を進めていくため、地元と意見交換会を実施していく。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他					
部意見	近年地すべりが活発化し、亀裂、段差等の活動が顕著で、保全対象である人家、県道への拡大兆候を示しており、道路が寸断されれば人家124戸が孤立化するため、緊急性も高く早急に対策を行う必要がある。			政策評価課 見	重要性、緊急性が高い。					